

経営比較分析表（令和6年度決算）

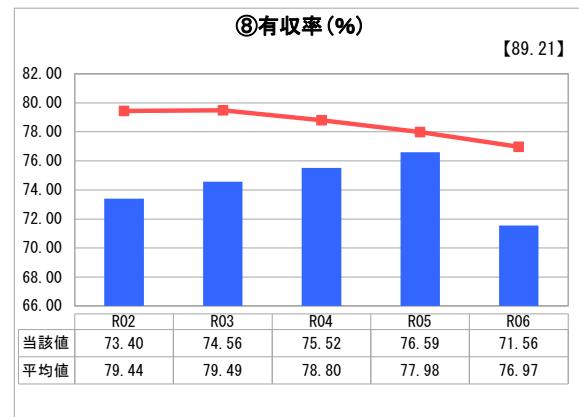
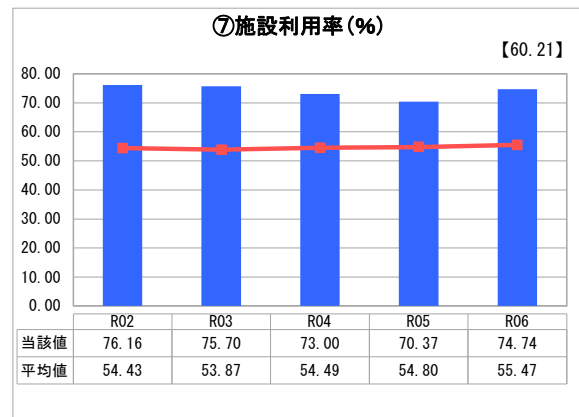
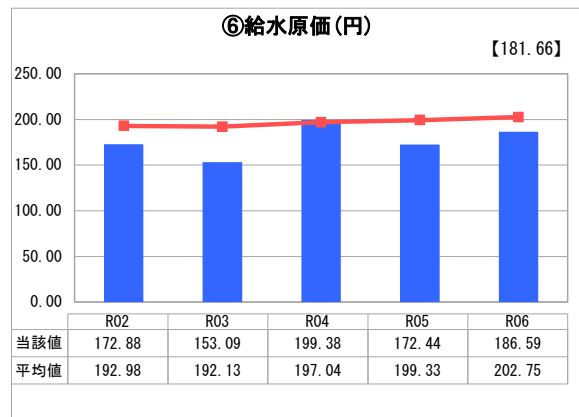
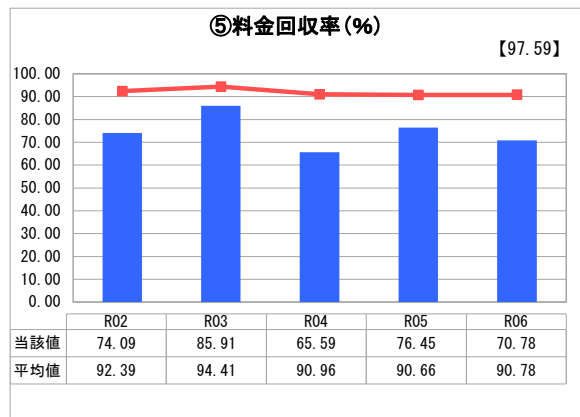
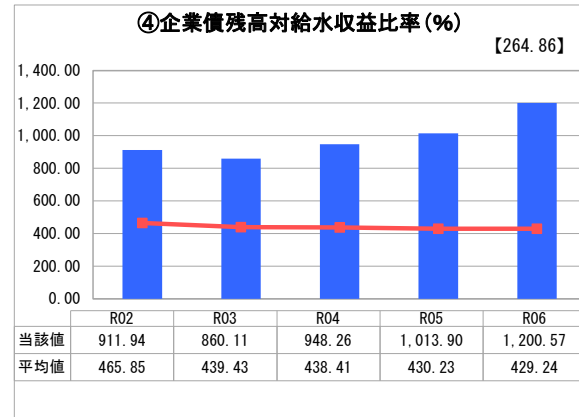
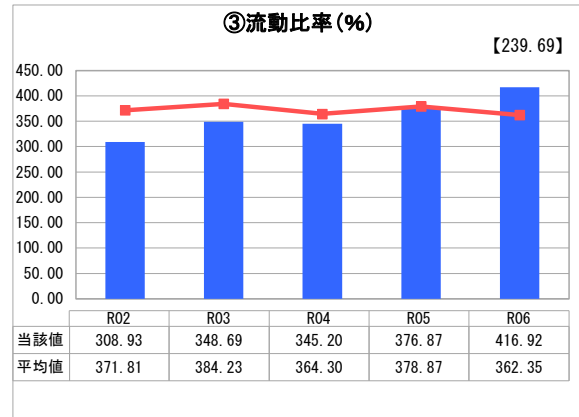
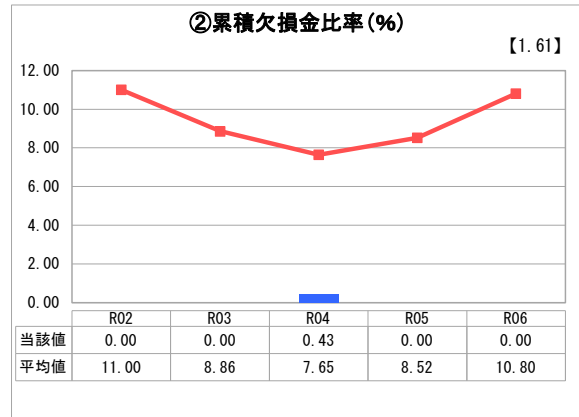
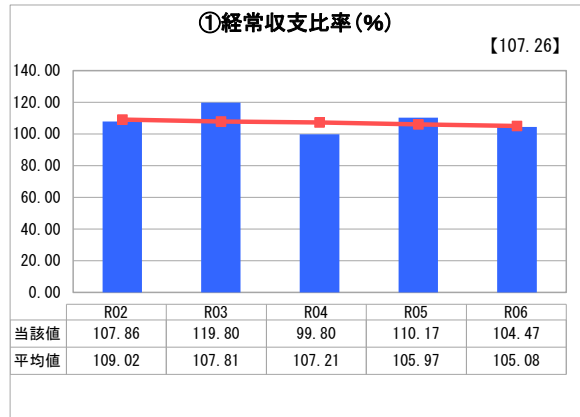
熊本県 あさぎり町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.65	95.16	2,728	

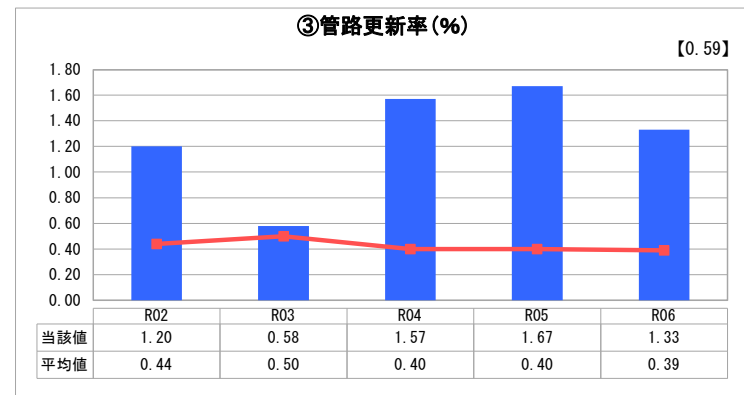
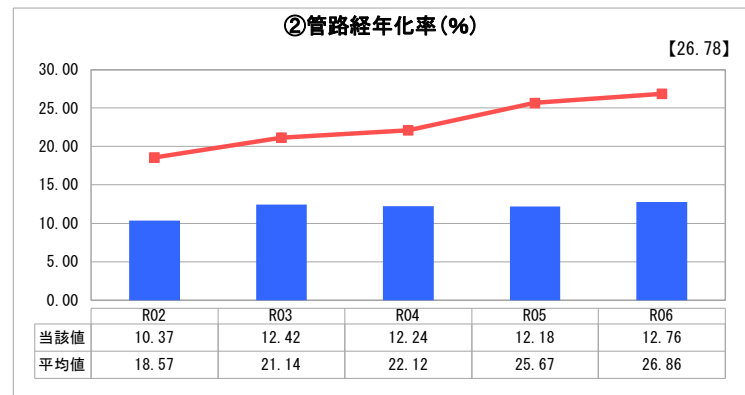
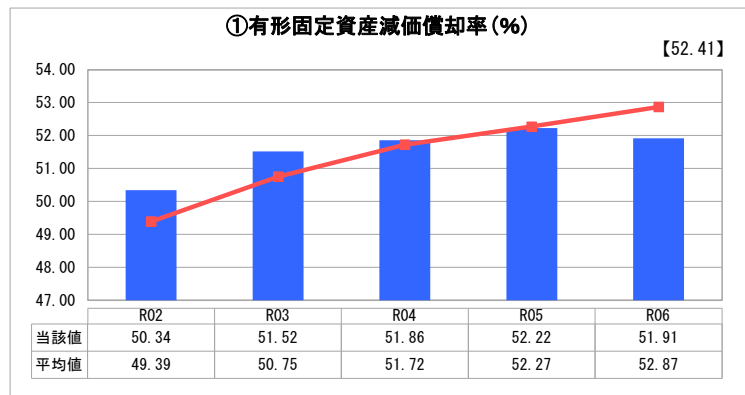
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,058	159.56	88.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,215	47.63	277.45

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①の経常収支比率は100%以上となっており、類似団体と比較しても同等の水準であるため、良好な経営状態と考えられます。しかし、今後の人口減少に伴う料金収入の減少や、施設の老朽化による維持管理費用の増加も見込まれることから、適正な料金設定の検討が課題になると考えられます。

④の企業債残高対給水収益比率については、類似団体に比べ高い数値であり、昨年度より上昇しています。上昇の要因として、節水機器の普及や人口減少等により給水量が減少し、それに比例して給水収益が減少したことと、水道施設再編整備や老朽管路の更新整備による起債額の増大が考えられます。今後も計画的な施設整備を行っていく必要があるため、本比率は十分留意していく必要があります。

⑤の料金回収率については、類似団体と比べ低く100%を下回っています。経営戦略の見直しなどにより、適切な料金収入の確保に向けた対策が必要であるとされます。

⑥の給水原価については、類似団体と比べ低い数値となっています。今後、施設再編整備事業により経常経費の抑制が図られ、効果が表れると推測されますが、人口減少に伴う有収水量の減少などの要因により変化するものと考えられ、料金回収率と併せて本比率も留意していく必要があるとされます。

⑧の有収率については、類似団体と比べ低い状況です。老朽管の計画的な更新や、漏水調査による漏水箇所特定など、継続的に対策を講じる必要があるとされます。

2. 老朽化の状況について

②の管路経年化率については、平成29年度に上水道事業に統合しました旧簡易水道区域の管路整備年度が新しいため、類似団体に比べ経年化率は低い数値となっています。

③の管路更新率については、平成27年度から実施計画に基づき老朽管が多い地区の更新事業を重点的に実施しており、上水道・簡易水道統合以降、類似団体に比べ管路更新率は高い数値となっています。今後も引き続き計画的に更新事業を進めていきます。

全体総括

経常収支比率は100%以上となっていますが、今後、人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化による修繕や資材等の高騰、人件費の上昇など経常費用の増加が予測されます。しかしながら、料金回収率は類似団体より下回っており、将来、施設・管路の維持管理・更新を行っていくための財源確保が課題となります。そのため、料金改定も見据えた経営の改善を図る必要があります。

布設替工事については、実施計画に基づき、計画的に進めていくとしています。

また、近年の自然災害で被災した施設については、水道施設再編整備事業により施設の統合を行うことから、経営戦略の投資財政計画を見直し、その他の指標についても比較検討することで、経営の健全化に取り組むことに努めます。